

令和5年12月1日

自他の人権を尊重し、人権感覚を磨こう

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

国際連合の活動はすべて世界平和の実現と人権に関わっていると言えます。1948年12月10日に世界人権宣言が国連総会で採択されました。これを記念してこの日を最終日とする人権週間が設定され、特に12月10日が世界人権デーとなっています。

本校では12月4日より校内人権週間を設定し、学級活動での人権学習の実施、人権作文、標語等の作成、人権に関する講話等の取組を計画しています。

世界人権宣言では「人間は、人種、信条、性別、言語、または宗教などによって差別されてはならない。全ての人間の人権と基本的自由は尊ばれ、守られなければならない。」という趣旨が、前文と36か条の条文の中に一貫して述べられています。

人権週間という特別な期間での指導や啓発も大切ですが、日頃から自他の人権を尊重する態度や人権感覚を磨くことが肝要です。学校でも様々な人権課題についての理解を深め、差別や偏見等のない学びの場を創造していきます。

御家庭でも話題にされてください。

令和5年12月6日

たき火のような温かい言葉かけを

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

全校朝会での講話です。

寒い冬の日、二匹のハリネズミは、お互いの身体を温めようと寄り添いました。ところが、お互いの身体についている身を守る針が相手の身体に突き刺さり、血まみれになってしまいました。二匹は困ってしまいましたが、あることに気がつきます。お互いの針が身体に触れないちょうどよい距離を見つけて、寒さをしのいだのです。このハリネズミの知恵は、友達関係にも使えそうです。ちょうどよい距離を見つけ出せるといいですね。

さて、人間の身体には針がありませんが、一つだけ針を持っているものがあります。それは言葉です。できることなら、他者には針のように痛く、冷たく、ちくちくする言葉ではなくて、たき火のようにぽかぽか温かく、優しい言葉をかけてあげたいものです。校長室前廊下に張ってある北原白秋の詩「きれいな言葉はきれいな心、優しい言葉は優しい心。一つの言葉を大切に、一つの言葉を美しく。」です。私も気をつけます。

結びに一句 ほっこりと焚火に似たる言葉かな

令和5年12月9日

感動と勇気をもらった校内持久走大会

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

持久走大会を行いました。

本年度から各学年部に応じた設定時間内に、校庭の周回コースをどれだけ長く走れるか、自己の最長記録に挑戦する大会へと内容を変更しました。自己ベストを目指し、力走を見せてくれた子どもたち、応援の声にも力が入りました。

自ら目標を立て、工夫したり努力したりする点などをよく考え、その基準に沿ってどこまで達成できたかを自己評価すること、また、それを他者が認め、賞賛するといった関係性により自己肯定感が高まると思います。私は目標記録を随時設定して励む子どもの姿に、よく頑張ったと素直に賛辞を贈ることができました。

子どもたちにとって、自己肯定感を更に高めることができた持久走大会になったと思います。辛くても最後まで諦めない強い気持ち、目標設定やその達成を通して、更なる高みを求める姿勢を今後も様々な面に生かしてほしいと思います。

子どもたちの姿や運営する教職員の姿に、感動と勇気をもらいました。

令和5年12月22日

新年を新たな気持ちで迎えよう

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

早いもので二学期の終業式を迎えました。学校教育の充実を期すために、職員と子どもたちが一体となり、工夫を凝らしながら教育活動や学校行事等の取組を行ってきました。

運動会、陸上記録会、持久走大会等、子どもたちのひたむきな頑張りに元気をもらい、感動する日々でした。子どもたちもきっと達成感や成就感、自己肯定感をさらに高めたことでしょう。

また、保護者や地域の方々の温かい御支援、御協力に対しましても感謝の連続でした。

新しい年を迎える冬休みに入ります。子どもたちには、年末年始の恒例行事や地域での活動、親戚の集い等、日本文化のよさにふれ、豊かな体験をこの休みにしてほしいと思います。

元日の朝、日頃見慣れた景色も何か新鮮に感じられるのは私だけではないはずです。「一年の計は元旦にあり」と言われます。新年の抱負や目標、夢や希望等、各自の取り組むべき計画をしっかりと立て、また新たな気持ちで挑戦を続けてほしいと思います。

皆様、よいお年をお迎えください。新年も変わらぬ御支援、御協力をよろしくお願いします。